



# 医学部だより

第47号

2023.10.1



## 医学部創立80周年 ～「医学は一つ」～

医学部長 西岡安彦

徳島大学医学部は2023（令和5）年に創立80周年を迎えています。80年の歴史の中で数多くの諸先輩方が活躍してきましたが、その中でも大活躍された二人の先生の記念ギャラリーが設けられているのはご存じでしょうか。1961（昭和36）年に医学部附属酵素研究施設の第一部門として設置された酵素化学部門の初代教授、勝沼信彦先生とその翌年に第二部門として設置された酵素生理部門の初代教授、藤井節郎先生の記念ギャラリーです。勝沼先生は、「アイソザイムの代謝調節機構の解明」、「細胞内蛋白質分解機構の研究」、「各種カテプシン群の特異的人工合成阻害剤の開発」など、酵素学分野の発展に大きく貢献され、医学部長も歴任されています。また、多くの後進を育てられ勝沼先生門下から35名の教授が生まれています。勝沼信彦記念ギャラリーは、医学部正面玄関を入ってすぐの左手側に設置されています。一方、藤井節郎記念ギャラリーは藤井節郎記念医科学センターの1階に設けられています。藤井先生は、「癌の生化学的研究」「蛋白分解酵素と阻害剤の病態に関する研究」「脂質代謝と病態に関する研究」を展開され、抗がん剤UFT<sup>®</sup>、汎発性血管内凝固症候群の治療薬FOY<sup>®</sup>、膝炎治療薬フオイパン<sup>®</sup>およびフサン<sup>®</sup>、高脂血症薬メバロチン<sup>®</sup>などの創薬に大きく貢献されました。藤井先生は1976（昭和51）年に大阪大学蛋白質研究所教授として移られましたが、藤井節郎記念ギャラリーには、大阪大学の元総長である山村雄一先生から藤井先生に贈られた言葉が掲載されています。そのタイトルが「医学は一つ」です。数多くの治療薬を生み出した藤井先生

のご研究を評して、「藤井先生の研究に一貫していえることは、医学には基礎とか臨床とかの区別は存在していない、医学は一つであるということであろう。彼はこのことを基礎医学の一つである医化学の立場から証明し、かずかずの輝やかしい業績をあげてきた。（中略）その成果は広い範囲で臨床的に使用され、また今後も実用化されて医療に役立つものが少なくないことであろう。」と述べられています。基礎医学、臨床医学という言葉はありますが、医学として目指すものは一つであろうという言葉と理解できると思います。また、基礎医学、臨床医学の域を越えて幅広い視野を持つことの重要性を教えられているようにも感じます。さらに、医学の域を越えて、例えば医工連携を考えることも重要な要素になっていくことでしょうか。記念ギャラリーには、藤井節郎記念大阪基礎医学研究奨励会理事長からの開設当時の言葉として「いつの日か徳島大学からノーベル賞受賞者が現れることを期待しています。」という言葉が掲げられています。80周年を機に2つの記念ギャラリーをゆっくり巡りながら、中村修二先生に次ぐ医学部からのノーベル賞の夢を思い描かずにはいられませんでした。



勝沼信彦記念ギャラリー



藤井節郎記念ギャラリー

### 目次

### CONTENTS

巻頭言	1	学遊抄	9
徳島大学医学部創立80周年記念事業について	2	Jr. Student Lab サマーセミナー開催報告	9
留学体験記	4	数字で見る医学部	10
第75回西日本医科学生総合体育大会	5	新任教職員ご挨拶	11
オープンキャンパス報告	6	第75回西日本医科学生総合体育大会	11
学生委員会から	7	新任准教授紹介	12
教務委員会から	7	医学部行事予定	12
徳島医学会報告	8	編集後記	12
各賞受賞者	8		

# 徳島大学医学部創立80周年記念事業について

徳島大学医学部は、昭和18（1943）年2月に四国最初の医学専門学校として設立された徳島県立徳島医学専門学校として始まり、令和5（2023）年に80周年を迎えています。

徳島大学医学部の歴史を綴った周年史として、（故）齋藤史郎元学長が医学部長を務められていた平成5（1993）年に纏められた医学部五十年史があります。徳島医学専門学校の創立前期からの歴史をまとめた内容が綴られていますが、その当時においても創立期の状況においては執筆者の記憶に頼らざるを得ない状況にあり、大変な労力をかけての編集作業であったことが伺えます。さらに50周年の後、国立大学の法人化を始めとする激動期後の目まぐるしい歴史の変化は、たとえ数年間を切り出してみてもその情報量は膨大です。本年の80周年を機に、その後の30年間の歴史を纏め、徳島大学医学部の発展のために尽くされたその時代時代の努力を色あせることなく後世に伝えることには大きな意義があると考え、記念誌編纂を軸に創立80周年記念事業を執り行うことといたしました。

昭和39（1964）年に創設された医学部栄養学科（現在の医科栄養学科）、平成13（2001）年に徳島大学医療技術短期大学部を改組して設立された医学部保健学科と共に医学部3学科による記念事業として各同窓会である青藍会、栄友会、陸眉会にもご支援をいただき準備を進めております。諸先輩方が築かれた医学部のさらなる発展を目指し、①医学部80年史編纂、②記念式典と記念講演会の開催、③教育・研究・学生支援事業（青藍講堂整備事業、学生の海外留学支援など）を記念事業として執り行いたく、「徳島大学医学部創立80周年記念事業基金」を設け募金をお願いすることといたしました。

ぜひ、徳島大学医学部創立80周年記念事業にご賛同いただき、募金活動にご協力をいただきますようお願い申し上げます。

医学部長 西岡安彦

徳島大学医学部では、80周年を記念する事業を以下のとおり計画しています。

## 1 徳島大学医学部80年史編纂事業

昭和から平成、令和へと続く中で、校舎の改修、医療技術短期大学部から医学部保健学科への転換、国立大学の法人化、栄養学科から医科栄養学科への改組、分野の変遷など、時代とともに歩んできた徳島大学医学部の歴史をたどり、80年史を編纂します。

## 2 記念行事の実施

日時：2024年2月18日（日）、午前10時～

場所：徳島グランヴィリオホテル（〒770-0941 徳島県徳島市万代町3-5-1）

内容：10時～ 記念式典

10時40分～ 記念講演会 講師：香川大学長 上田夏生氏  
徳島大学副理事・教授 安友康二氏

12時20分～ 記念祝賀会

## 3 教育・研究・学生支援事業

修学環境整備／講義室や自習スペース、厚生施設などの整備・拡充

グローバル化推進／留学プログラムの受講援助などのグローバル人材育成に関する支援

教育研究支援／学生の学会発表補助、学生表彰の充実など

## 創立80周年記念事業基金

### ご寄附のお願い

徳島大学医学部創立80周年記念事業の実施にあたり、本学関係者・支援者、同窓生、学生のご家族の皆さまには、どうか趣旨にご賛同いただき、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

### ご寄附の方法等

募金の期間：令和6年6月末日まで

ご寄附の額：1口1万円

\*1口未満のご寄附もありがたくお受けいたします。

### ご寄附の方法

#### 1 インターネット(クレジットカード、コンビニ、ペイジー決済)によるご寄附

徳島大学基金のホームページからお申し込みください。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/application/internet.html>

\*寄附金の用途を選択する画面で「医学部創立80周年記念事業」を選択してください。



#### 2 「払込取扱票」によるご寄附【ゆうちょ銀行】

下記の「お問い合わせ先」にご連絡いただくか、下記 URL のフォームに送付先を入力していただきますと、折り返し「払込取扱票」の用紙をお送りいたします。「払込取扱票」により、ゆうちょ銀行・郵便局の窓口又は ATM でお振り込みください。

<https://forms.office.com/r/Sd3DpVG4eh>

\*ゆうちょ銀行口座からの払込みは手数料不要ですが、現金での払込みには、手数料をご負担いただくことになります。

#### 3 「寄附申込書」によるお申し込み

寄附申込書をダウンロードいただき、メールまたは郵送で、下記の「お問い合わせ先」までお送りください。折り返し振込依頼書をお送りいたします。

<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/application/paper.html>

徳島大学ホームページ > 寄附申し込み > 寄附申し込み方法 > 書面でのお申し込み

\*寄附申込書の「2 寄附の目的」は、「学部等支援事業(学部等名:医学部創立80周年記念事業)」と記載してください。

#### ●領収書の発行

領収書の発行は、寄附金が徳島大学へ入金された後の発行となります。お申し込みいただいてから寄附金が徳島大学に入金されるまでに、2ヶ月程度要する場合がございます。なお、領収書発行の日付は、お手続きいただいた日付となります。領収書がお手元に届くまでに時間を要することとなりますが、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

#### ●税制上の優遇措置

個人でご寄附をされる場合は、徳島大学が発行する「寄附金領収書」を添えて確定申告をすることで、税制上の優遇措置を受けることができます。

#### ●謝 意

ご芳名を徳島大学ホームページに掲載いたします。(掲載希望の有無を事前に確認いたします) 徳島大学広報誌「とく talk」をお送りします。

3口(3万円)以上ご寄附いただいた方に、徳島大学医学部80年史をお送りします。

【お問い合わせ先】 徳島大学蔵本事務部医学部総務課総務係  
〒770-8503 徳島市蔵本町3-18-15  
電話：088-633-9116(代)  
E-mail：isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp

# 留学体験記



## ニューキャッスル大学

医学科6年次 堺 亜紀

私は、医学教育振興財団主催の英国短期臨床留学プログラムで2023年3月にニューキャッスル大学にて4週間の選択実習をさせていただきました。実習では消化器外科と産婦人科、感染症内科で病棟業務や外来、手術見学を主に行い、英語での問診や身体診察、採血も経験できました。また、イギリスの家庭医であるGPの診療所を見学する機会もいただきました。イギリスの医療制度であるNHSは、無償の治療費や医療通訳など医療へのアクセスを平等にする仕組みに目を見張るものの、一方で、長期の診療待機時間や医療従事者の賃金低下等の問題も抱えているという現状を、身をもって体験できた4週間でした。貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。



## ソウル国立大学

医学科6年次 加藤 佑実

6年生の4月から10週間、ソウル国立大学への交換留学で、形成外科分野で実習を行わせていただきました。大学病院及び、分院であるブンダン病院、ボラメ病院の合計3つの病院で実習を行い、毎日たくさんの手術を見学させていただきました。そして現地学生や他の留学生と共に英語での講義にも参加させていただきました。形成外科分野にはアジア、ヨーロッパ、アメリカなどからたくさんの交換留学が来ており、医学の勉強だけでなく、留学生同士で交流を深めることもでき、実習終わりや休日には留学生同士で観光したり、とても充実した留学生活



を送ることが出来ました。最後に、今回の留学をご支援いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



## ソウル国立大学

医学科6年次 友廣 佳奈

私は2023年4月3日から6月9日の間、韓国のソウル国立大学にて臨床実習をさせていただきました。計10週間、前半5週間は小児科、後半5週間は産婦人科での実習でした。

まず、前半の小児科では呼吸器アレルギー分野を専攻しました。先生方は皆さん優しくとても心強かったです。1日のスケジュールとしては午前中は教授の回診に付き添い、午後は外来を見学して、終了後夕方の回診の見学といったものでした。一度、小児科学会にも連れて行ってほしい、なかなか出来ない経験をすることもできました。後半の産婦人科は不妊の分野を専攻しましたので、基本は不妊治療の見学や婦人科外来の見学をして、希望すれば分娩や手術を見学することができました。海外で医学を学ぶという貴重な体験をさせていただきだけでなく、休日は韓国の友達と遊ぶなど文化を学



ぶこともできる貴重な10週間でした。

関わってくださったソウル国立大学の先生方や学生、留学生がどの方も優しく助けてくださり、本当にありがたかったです。最後にこの留学をご支援くださいました皆様に厚くお礼申し上げます。



## デラサールアラネタ大学 (オンライン留学)

保健学科2年次 東 條 有 里

私は、1年生の後期にGRIP(Global Person Resources Intensive Program)という英語プログラムに参加しました。この活動は、自分の視野を広げ、普段関わる事が無いような人と交流を深めてみたいと考えたため参加しました。また、活動の一環として、フィリピンの大学にオンライン留学しました。ここでは、大学の先生や現地の大学生との交流の中で刺激を受けることができました。今回の留学を通して、国境を越えて友人ができて、英語の能力を高めるだけでなく、自分自身の財産となる経験ができました。今後も、このような機会があれば参加したいと思います。関わってくださった先生方ありがとうございました。



GRIPを通して交流した留学生2名と

## 第75回西日本医科学生総合体育大会

### ゴルフ競技女子団体戦 徳島大学医学部ゴルフ部Aチーム優勝

医学部ゴルフ部 医学科2年 森 田 彩 夏

8月1日(火)に大阪府のアートレイクゴルフ倶楽部において開催された、第75回西日本医科学生総合体育大会ゴルフ競技女子団体戦で、徳島大学医学部ゴルフ部Aチームが優勝し、見事初優勝を達成しました。

今回の西日本医科学生総合体育大会は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、2019年に開催されて以来4年ぶりの開催となりました。昨年度の大会は、開催を目前にして中止になってしまい、今大会が開催されることは全大学のゴルフ部の願いでした。

今大会は、5年生の利川先輩、4年生の岡本先輩、2年生の私、1年生の竹内さんの4名でチームを組み出場しました。4名とも西日本医科学生総合体育大会には出場したことがなく、期待に胸を膨らませながら大阪へと向かいました。また、私は徳島大学に入学した当初からこの大会に出場することが目標であり、チームのメンバーに選んでいただいたことを大変嬉しく、光栄に思っています。

今大会が開催された大阪府のアートレイクゴルフ倶楽部は、日本庭園をイメージして設計されたそうで、クラブハウスの前やコースの各所に美しく配置された枯山水のような庭

や滝がとても印象深い、この歴史ある大会を開催するのにふさわしいコースでした。

コースの難易度を上げていると感じたのはやはりグリーンで、広いグリーンに細かなアンジュレーションがあるうえ、芝目も読まなくてはならず、アプローチとパターには細心の注意を払う必要がありました。また、池やバンカーも効果的に配置されており、方向性や距離感の面から見ても気の抜けないコースだったと感じます。

今大会は大阪で行われたため、コースの下見ラウンドに行くことができず、大会前日の公式練習日のみでコースの攻め方を考えなければいけませんでした。各々が今までの練習で培ってきた技術を用いて、十分戦うことができました。

このような難しいコースにも関わらず優勝という素晴らしい結果を収めることができ、一緒に出場していただいた利川先輩、岡本先輩、竹内さんには感謝しかありません。

今大会での優勝は、日頃より熱心にご指導くださる個一生監督、またいつも応援してくださる多くのOBの先生方、本校の先生方、部活の同期、先輩方、後輩たち、そして関係者の皆様のお力添えがあったからこそです。これからも部員一同、ますます精進してまいりますので、是非、応援のほどよろしく願いいたします。





## オープンキャンパス 報告



### 医学科

去る8月10日(木)に医学科のオープンキャンパスが大塚講堂での対面及びライブ配信のハイブリッド形式で開催されました。今年是对面では約300名(生徒約190名 保護者約110名)の方々にご参加いただき、西岡安彦医学部長、橋本一郎医学科長のご挨拶に引き続き、医学科の概要説明(岩佐(医学部入試委員長))、西良浩一教授(運動機能外科学分野)と森野豊之教授(遺伝情報医学分野)によるミニ講義が行われました。臨床医学および基礎医学の最先端で活躍される先生の講義とあって、参加された皆様は熱心に耳を傾けていました。その後、生徒の皆様には医学科の研究室を中心とした施設見学、保護者の皆様には高等教育研究センターアドミッション部門の植野美彦部門長による入試制度説明会に参加していただきました。一連を通じて、徳島大学の強みや魅力、そして恵まれた環境や医学関連施設の充実度についてご理解いただけたと思います。これをきっかけとしてより多くの生徒が徳島大学医学部医学科を志望し、今後も将来の

医療を支える人材が多数輩出されることを願っています。台風の影響のため悪天候の中での開催でしたが、成功裡に終えることができました。当日ご協力いただいた教員の皆様、準備から運営まで担当していただいた事務の皆様、学生の案内を買って出てくれた学生諸君に感謝申し上げます。

(文責：医学部入試委員長(産科婦人科学分野 教授) 岩佐 武)



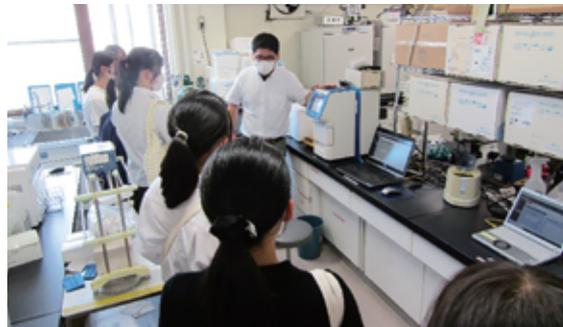
### 医科栄養学科

2023年8月2日(水)、医科栄養学科オープンキャンパスが開催され、合計208名(参加学生123名、同伴者85名)の参加者があつた。県内と県外からの学生の割合はそれぞれ約半数ずつであった。9時40分より大塚講堂大ホールにて、学科長の挨拶、入試委員より医科栄養学科の概要説明が行われた。その後内田貴之講師によるミニ講義「宇宙実験体験記-宇宙から得られた知見とその応用-」があつた。ミニ講義は、高校生等に大学の講義を体験してもらい、医科栄養学科に対する興味をさらに具体的なものにしてもらうことを目的とした。その後、学生は施設見学を行った。医科栄養学科の学生、医科栄養学研究科の大学院生が案内し各研究室ではそれぞれ教室員が説明すると同時に一部4年生の卒業論文中間発表会の見学を行った。学生が施設見学を行っている間に、保護者に対して徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門から医科栄養学科の入試制度についての説明を行っていただき、その後保護

者からの質問に対して入試委員、教務委員をまじえて対応した。感染対策のため、栄養学科棟内のみ施設見学は学生だけの参加となった。

施設見学の場所の選定や保護者の施設見学への参加の有無などに今後の課題があるが、おおむね盛況であり12時には解散となった。

(文責：医学部入試委員(予防環境栄養学分野 教授) 高橋 章)



### 保健学科

台風6号の進路が気になる中、8月8日(火)午後、予定通り保健学科のオープンキャンパスは開催されました。厳しい暑さと不順な天候にもかかわらず、看護学専攻103名、放射線技術科学専攻48名、検査技術科学専攻37名の高校生と保護者の方141名に参加いただきました。今年COVID-19感染がじわじわと増えてきていることもあり、例年の半分の人数にして密を避けて行いました。徳島県内だけではなく、県外からも多くの参加がありま

した。大塚講堂において学科長の挨拶や入学試験の概要説明が行われた後、大塚講堂や保健学科棟で専攻別に分かれて、施設見学、専攻別相談会、体験学習などが行われました。看護学専攻では、体験実習に33名、病院見学に31名の高校生が参加し、体験実習ではバイタルサインの測定、包帯法、健康教育などを実習してもらいました。病院見学では、外来棟を始め大学病院で看護師さんが活躍している現場を見学してもらい、新人看護師さんと触れ合う機会も得ました。体験実習や病院見学に参加できなかった高校生の方々には、大学の施設や入学後に学ぶ学習内容や実習風景を編集したDVDを見ていただき理解を深めてもらいました。懇談会場では学部学生や教員が一緒になって学生生活や受験勉強について相談を受け付け、大変盛況でした。高校生も学部学生と触れ合うことができ、楽しそうにしていたのが印象的でした。他の専攻においてもそれぞれ工夫をこらして専攻の特色をアピールし、高校生にとって将来学ぶべき内容や職業観について理解してもらい、有意義な半日を過ごすことができました。一人でも多くの高校生が徳島大学医学部保健学科を受験されることを願っています。

(文責：医学部入試委員(生殖・更年期医療学分野 教授) 安井敏之)



## 学生委員会から

医学部学生委員長  
(細胞生物学分野 教授) 米村 重信

医学部学生委員会は医学科の基礎系、臨床系、医科栄養学科ならびに保健学科より合計10名の委員が構成しており、2023年度は医学科基礎系の米村重信が委員長を務めております。業務をほとんど理解していないまま委員長になって数ヶ月経ちますが、日々、新しく業務を経験し、学生委員会の役割を学んでいるところでございます。おおまかには、学修やカリキュラムに直接関わらない部分で学生の生活全般について問題解決にあたり、学生を支援する委員会と捉えております。

学生委員長のハンコが必要ということで頻繁に関わるのはクラブ活動における、学外での試合への参加などの許可です。学生の活動が大学を代表する自覚を持ち、無軌道にならないために、大学が許可するという一定の手続きを踏んでいると考えています。休学や復学に関し、学生委員長もほとんどの場合形式的ですが、目を通して許可をします。

学生証の再発行の手続きでも学生委員長の許可が必要とされます。許可など不要にして事務的に手続きを進めればとも思いますが、学生証の紛失を繰り返す学生などがいれば、学生委員長による教育的指導が求められているのだろうと推察します。

また、学生委員長が関わる奨学金の選考もあります。

学生委員会として委員たちが真剣に議論を重ねる一つの例は、楽しいことではないですが、学生の懲戒処分に関することです。事情を聴取し、学生に対する教育的な効果を考えて、適切な処分にするための議論には相当な努力が払われます。

学生委員長として全学の学生委員会に毎月出席する必要がありますが、全学では、奨学金貸与の資格の検討、学生寮、大学祭の実施、学生の健康状態（特にメンタル）のデータの検討、四国地区大学総合体育大会についての今後の実施プランなど全学レベルでの学生に関する諸問題を議論しています。

社会でも大学内でも、新型コロナについて、これからは過剰な対応でなく適切な対応をして、その上で感染者は増やさないことを目指すように変わってきました。新型コロナの状況下、対面での人間関係が希薄になってしまった点は、仕方がなかったとはいえ、医療を志す者として多少問題を抱えてしまったかもしれません。そのような中で、気持ちよく他人と接して、助け合える良好な人間関係を築けるように意識して努力を重ねた人は将来同世代の中でもきっと光って見えることでしょう。これからもそのような努力を続けていってほしいと思います。

## 教務委員会から

医学部教務委員長  
(疾病病理学分野 教授) 常山 幸一

医学部教務委員会は医学科、医科栄養学科、保健学科、卒後臨床研修センター、医療教育開発センター、医学部教育支援センターから選出された19名の教員と医学部学務課長の20名で構成され、教育系の各センターや学務と協同で医学部の教育課程の編成や授業科目の履修方法、進級及び卒業の認定、留学や他大学等との授業科目の履修、授業概要の作成等、学生の学習に関する事項の助言指導を行っています。徳島大学医学部としてどのような学生を育てるのか、というアウトカムを教員と学生の双方が共有して実践できるように、教育を継続的に改善し、実行していくのが教務委員会の役割であり、現在直面している教育に係る諸問題から、社会の要請に対応しうる将来的な制度設計まで多岐にわたって協議を行っています。

教務委員会には、教養・基礎医学研究部会、臨床医学教育部会、全国共用試験CBT・OSCE部会、社会医学・臨床実習部会)、卒業試験部会、国試対策部会の6つの部会があり、細やかな学生対応を行っています。令和4年度からはStudent Lab部会が活動を開始し、医学研究活動を行っている学生同士の情報交換・交流の場となるStudent

Lab部室の設置や、夏休みに高校生対象の高大連携サマースミナーを企画するなど、学生が研究に集中できる環境作りをすすめています。基礎医学では水平統合、垂直統合推進の端緒として、生化学・生理学・薬理学の実習を統合した基礎医学統合実習を単位化しました。臨床実習では医学教育分野別認証評価に適応しうる実習期間を確保するため、臨床実習改革WGを中心として新しいカリキュラムの策定がすすめられており、令和6年1月から学内全科をローテーションする診療参加型臨床実習Ⅰと重要な診療科を含む学内外の7診療科を各4週でローテーションする診療参加型臨床実習Ⅱに再編されることが決定しました。3年前に4つの領域に統合化された卒業試験では、卒業試験問題作成講習会を実施して国家試験に準拠した問題作成を徹底し、すべての試験について解説講義を導入するなど内容の充実注力しており、その成果もあってか、昨年度は医師国家試験の現役合格率100%を達成することができました。教務委員会では今後も、社会の動きに迅速に対応しながら、アウトカムの達成と学生さんの負荷の軽減を両立できる最適な方法を探っていきたいと考えています。

# 徳島医学会報告

## ■ 第267回徳島医学会学術集会(令和5年度夏期)

応用栄養学分野 教授 瀬川博子  
眼科学分野 教授 三田村佳典

第267回徳島医学会学術集会は、令和5年8月20日(日)に徳島県医師会館を会場に開催された。今回大学側の担当は、応用栄養学分野 瀬川博子教授、眼科学分野 三田村佳典教授が務めた。新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策のため対面方式の開催がしばらく中止されていたが、今年は3年ぶりに一部再開された。講演とシンポジウムは対面方式での開催、ポスターセッションは前回同様に音声入り動画をオンデマンド形式でホームページ上に公開し、徳島医学会賞および若手奨励賞の審査を行うこととした。会場では、教授就任記念講演として、薬理学分野 池田康将教授による「生命金属元素鉄の新たな役割と治療応用」、遺伝情報学分野 森野豊之教授による「ゲノム技術の進歩とゲノム医療」、がん看護学分野 今井芳枝教授による「今後の展望」をご講演いただいた。西岡安彦医学会会長、齋藤義郎県医師会会長のご挨拶の後、第50回徳島医学会賞及び第29回若手奨励賞授与式が行われ、引き続き、徳島医学会賞受賞記念講演として、徳島大学大学院医歯薬学研究部代謝栄養学分野 田中杏奈先生による「高脂肪食が記憶学習能力に与える影響とそのメカニズムの解

明」、JA徳島厚生連阿南医療センター内科 森建介先生による「高齢2型糖尿病患者におけるGNRIスコアと骨格筋異常病態の検討」をご講演いただいた。市民公開シンポジウム「再生医療と栄養」では、臨床食管理学分野の大南博和助教に「知っておきたいリハビリテーション栄養のキホン」を、仁愛大学人間生活学部健康栄養学科の山本浩範教授に「時間栄養とビタミンD～寝たきりに至る疾患の重症化予防のために～」を、眼科学分野の梶田敬介医師に「再生医療について」を、神戸市立神戸アイセンター病院の万代道子研究センター長に「網膜の再生医療」をご講演いただいた。以上、徳島県で行われている最先端の研究発表や栄養と再生医療についての分かりやすい講演など、学びの多い学会であった。

本学術集会の開催にあたり、徳島県医師会、徳島医学会事務局、関係スタッフの皆様およびご参加、ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

(文責：眼科学分野 講師 四宮加容、  
応用栄養学分野 助教 塩崎雄治)



### ◆◆◆ 各賞受賞者 ◆◆◆

■ 第266回徳島医学会学術集会(令和5年2月12日)において、第50回徳島医学会賞及び第29回若手奨励賞の受賞者が選考されました。(オンライン開催の為、受賞日は3月13日)

## 第50回徳島医学会賞

田中 杏奈(徳島大学大学院医歯薬学研究部 代謝栄養学分野)  
「高脂肪食が記憶学習能力に与える影響とそのメカニズムの解明」

森 建介(JA徳島厚生連 阿南医療センター 内科)  
「高齢2型糖尿病患者におけるGNRIスコアと骨格筋異常病態の検討」

## 第29回若手奨励賞

中西 颯斗(徳島大学病院卒後臨床研修センター)  
「切除不能・再発膵神経内分泌腫瘍(pancreatic neuroendocrine neoplasm:P-NEN)に対し放射性核種標識ペプチド治療(PRRT)を行った4症例の有効性及び安全性についての検討」

新居 寛子(徳島大学病院卒後臨床研修センター)  
「周期性の発熱、胸背部痛をきたした家族性地中海熱の女性例 - AYA世代患者における多職種連携の重要性 -」

## 学遊抄

## 石の上にも三年

臨床腫瘍医療学分野 教授 近藤和也

私は40年間、呼吸器外科の道を歩いてきました。その原点は、国立がんセンターの研修です。その頃のがんセンターは、下里先生、向井先生、野口先生、松野先生がおられ、肺癌病理のメッカでした。呼吸器外科には、成毛先生、土屋先生、呉屋先生がおられ、たくさんの医師が見学、研修に来られていました。

病理部の研修医は、小林先生と高森先生と私の3名でした。3人で昼の銀座に繰り出し、夜は高価で入れない店にランチを食べに行っていました。サントリーホールにも連れて行ってもらいました。

下里先生はお酒が好きで、定期的に懇親会を持たれました。その時の先生の教えが忘れられません。「私は沢山の研究をし、論文を書いてきたが、自慢できる事柄が2つだけある。みんなが癒痕癌と言っていた肺腺癌の癒痕は癌の後にできるものである、と主張し、癒痕癌の概念を否定したこと。もう一つは、み

んなが前縦隔にできる癌を転移性腫瘍と考えていた時に初めて胸腺癌という概念を主張したこと」。—この話を聞いたとき、大変感動しました。自分が何を残すか、が大切である、と。自分は死に跡形もなくなっても、論文は残って燦然と輝いている。これこそがライフワークである。

私も下里先生の教えを胸に秘め、臨床と研究をしてきました。胸腺上皮性腫瘍という稀な腫瘍に対して、本邦で大規模調査を行い、この腫瘍の臨床的、生物学的特徴を明らかにしました。また、クロム酸塩に暴露したヒト肺癌の遺伝子及び epigenetic な異常の研究を続けてきました。現在、海外の3施設と共同研究をしています。minor な分野でも長く研究し、英語論文を出し続けることで、同じ研究をしている海外の研究者がいて、その方から反応があります。周りに影響されず、その人にしかできない、一生をかけてする研究や事業に挑戦しましょう。



2013年10月25-26日に Sydney で行われた IASLC Staging and Prognostic Factors Committee General Meeting に Thymic domain member (→) として参加した。初めての胸腺上皮性腫瘍 TNM 分類が作成された。

## Jr. Student Lab サマーセミナー開催報告

8月8日(火)~10日(木)の3日間、医学部 Jr. Student Lab サマーセミナーが開催されました。Jr. Student Lab は高校生に医学研究等を体験する機会を提供するものです。今回は、医学部で初めての試みとして、多くの分野のご協力を賜り、講義・実習を3日間集中して実施(1.5時間×4コマ/日)し開催しました。実習系、特に医学体験実習、などはすぐに定員に達する状況で、3日間で173名の高校生(県内127名、県外46名)が参加してくれました。講義・実習では、高校生が熱心に聴講し、積極的に参加する姿勢が見られ、教員にとって大変喜ばしいものとなりました。高校生にとっては、医学部の講義室や実習室等を使用して受講できたこともあり、徳島大学医学部の広さを

実感したり、医学部受験の刺激になったりと、非常に好評なセミナーとなりました。台風で開催が危ぶまれる中、無事に開催できましたこと、講義・実習を担当していただいた教員の皆様、準備と運営を担当して下さった事務の皆様にご心より感謝申し上げます。今回のセミナーでは、複数の講義・実習を同一時間帯に実施していたため、アンケートでは、他の実習にも参加したかったという希望が多く見られました。来年度、より多くの高校生に実習等に参加していただき、より盛況なセミナーとなるよう改善、企画できればと思います。

(文責：Student Lab 部会 野間口 雅子  
(微生物病原学分野 教授))



# 数字で見る医学部

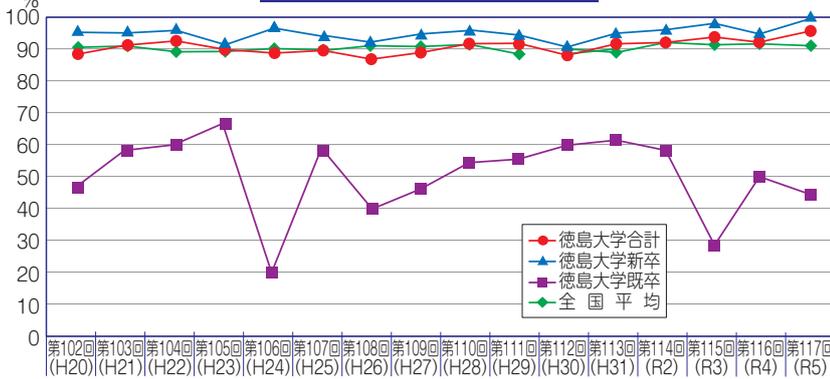
## ◆ 入学試験（医学・栄養・保健）

令和5年度 徳島大学医学部入学試験受験者・合格者数・入学者数調

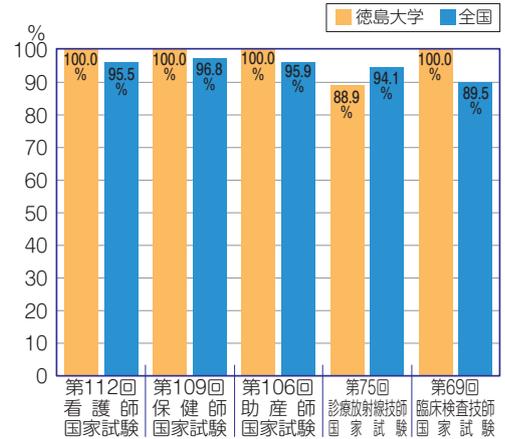
	定員	志願者	受験者	合格者	入学者	男	女	県内	県外	その他	現役	一浪	その他
医 学 科	112	323	244	114	112	67	45	34	78	0	74	31	7
医 科 栄 養 学 科	50	145	130	53	52	8	44	13	39	0	51	0	1
保 健 学 科	看 護	70	265	166	75	72	2	70	40	32	68	3	1
	放 射	37	227	133	42	38	16	22	6	32	33	4	1
	検 査	17	44	37	20	20	4	16	5	15	15	3	2

## ◆ 国家試験

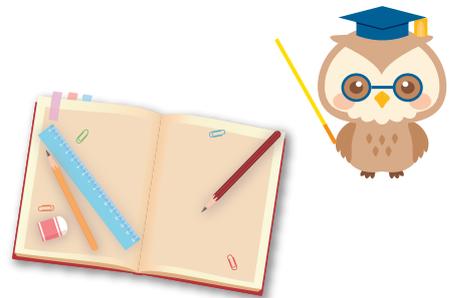
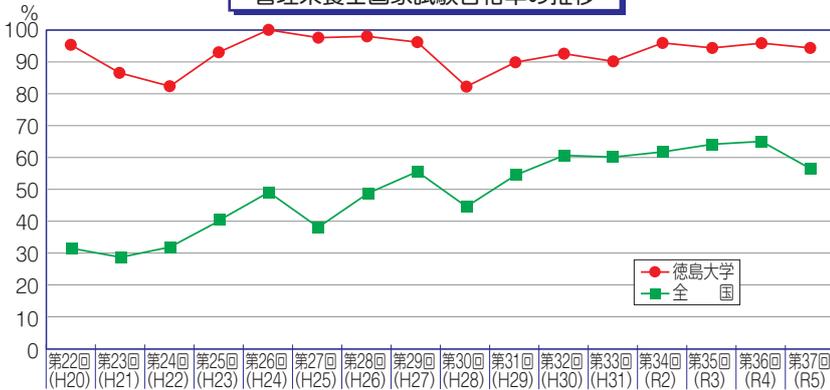
医師国家試験合格者の推移



保健学科 各種国家試験合格状況について



管理栄養士国家試験合格者の推移



## ◆ 科研費採択状況（医学部・病院の合計）

(令和5年7月1日現在)

研究種目名	平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)	件数	金額(千円)
基盤研究(A)	1	10,400	1	9,100	1	4,600	2	11,800	1	8,300	1	9,000
基盤研究(B)	12	49,200	13	64,900	13	50,600	14	57,200	15	72,400	16	65,900
基盤研究(C)	35	46,200	99	106,700	104	183,100	111	186,900	103	100,400	98	107,200
挑戦的研究(開拓)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
挑戦的研究(萌芽)	2	3,600	2	4,800	5	8,900	4	12,900	2	2,400	2	3,200
若手研究(A)	4	17,300	2	7,000								
若手研究(B)	27	38,600	7	4,100								
若手研究*			56	77,800	68	130,400	55	99,200	50	57,500	35	45,900
研究活動スタート支援	3	3,400	1	1,430	5	5,500	0	0	0	0	0	0
新学術領域研究	4	46,000	2	22,200	0	0	0	0	0	0	0	0
学術変革領域研究(A)									1	9,200	1	15,600
学術変革領域研究(B)							2	17,300	1	6,900	0	0
特別研究員奨励費	6	4,800	5	4,300	4	3,900	4	3,600	5	4,219	1	1,000
国際共同研究強化	1	1,900	1	4,000	1	4,100	1	3,800	0	0	0	0
合 計	95	221,400	189	306,330	201	391,100	193	392,700	178	261,319	154	247,800

\*若手研究(A)を基盤研究に統合し、若手研究(A)の公募を停止。それに伴い、若手研究(B)の名称を「若手研究」と改名。

## 新任教職員ご挨拶



### 細胞・免疫解析学分野 教授 富永辰也

令和5年4月1日付けで細胞・免疫解析学分野教授を拝命いたしました。私は、平成10年に徳島大学衛生技術学科を卒業後、島根大学生物資源科学部を卒業し、徳島大学病院検査部に就職し検査技師として研鑽を積んでまいりました。徳島大学大学院（腎臓内科学）にて学位を取得し、ノースウェスタン大学でリサーチフェローとして2年間研究しました。平成21年に本学医用検査学講座に助教として採用され、准教授を経て現在に至ります。教育は、臨床化学、生化学などの講義と実習を担当しております。

研究面では、糖尿病性腎症の発症・進展機序の解明に取り組み、早期診断法・治療薬の開発を進めています。また、エクソソーム精製法の開発を理工学部と共同で進めており、病気全般の診断と治療に貢献できるよう取り組んでいます。これからも臨床と研究で活躍できる優秀な臨床検査技師の育成と基礎研究の社会実装を目指して尽力してまいります。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



### 看護技術学分野 教授 安原由子

令和5年8月1日付けで看護技術学分野の教授を拝命いたしました。私は、平成15年神戸市看護大学大学院を修了後、同年4月から徳島大学医学部保健学科基礎看護学講座に所属し、20年間、看護技術演習や看護学概論など基礎看護学の教育に携わってまいりました。

れています。このような中、看護の基本をしっかりと学び、看護理論や根拠に基づいてケアの対象者を深く理解し、患者の状態に応じて看護技術の展開ができる学生を養成したいと考えております。

疾病構造の変化や新興感染症の流行など、看護の対象者のニーズは多様化しており、看護職者の臨機応変な対応能力および看護実践能力の向上が求めら

今後とも、エビデンスに基づく患者中心の看護援助が提供できるように、教育・研究を進めていきたいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## 第75回西日本医科学生総合体育大会

### 弓道部（女子団体戦）準優勝

8月22日(月)から8月24日(木)までの日程でエディオンアリーナ大阪（大阪府大阪市）で行われました。女子団体戦において準優勝されたほか、女子個人戦4位入賞、女子優秀射技賞に輝きました。

#### 女子団体戦メンバー

左から、医学科4年 田嶋 藍  
 医学科5年 西岡 朋可、医学科4年 末永あおい  
 医学科3年 中尾 天音、医学科3年 齋藤瑛美里



### バレーボール部



### ラグビー部



## 新任准教授紹介



異動年月日	異動内容	氏名	所属
R 5. 4. 1	採用	山口 治 隆	総合診療医学分野
R 5. 4. 1	昇任	船 本 雅 文	薬理学分野
R 5. 4. 1	昇任	川 中 崇	放射線医学分野
R 5. 5. 1	昇任	藤 谷 順 三	地域運動器・スポーツ医学分野

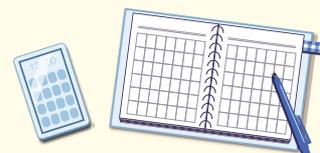
## 医学部行事予定 (令和5年10月～令和6年3月)

令和5年

- 10月2日(月) 後期授業開始  
 11月1日(水) 第118回医師国家試験願書受付 (11月30日(木)まで)  
 試験日: 2月3日(土)～2月4日(日)  
 11月2日(木) 徳島大学開学記念日  
 11月10日(金) 第107回助産師国家試験願書受付 (12月1日(金)まで)  
 試験日: 2月8日(木)  
 第110回保健師国家試験願書受付 (12月1日(金)まで)  
 試験日: 2月9日(金)  
 第113回看護師国家試験願書受付 (12月1日(金)まで)  
 試験日: 2月11日(日)  
 11月20日(月) 第37回管理栄養士国家試験願書受付 (12月8日(金)まで)  
 試験日: 3月3日(日)  
 11月23日(木)～24日(金) 入学試験 (学校推薦型選抜Ⅰ)  
 11月25日(土) 入学試験 (総合型選抜)  
 12月14日(木) 第76回診療放射線技師国家試験願書受付 (1月4日(木)まで)  
 試験日: 2月15日(木)  
 第70回臨床検査技師国家試験願書受付 (1月4日(木)まで)  
 試験日: 2月14日(水)  
 12月25日(月)～1月7日(日) 冬季休業

令和6年

- 1月13日(土)～14日(日) 大学入学共通テスト  
 2月11日(日) 入学試験 (学校推薦型選抜Ⅱ)  
 2月18日(日) 医学部創立80周年記念式典等  
 2月25日(日)～26日(月) 一般選抜(前期日程)  
 3月12日(火) 一般選抜(後期日程)  
 3月15日(金) 医師国家試験合格発表  
 3月21日(木) 診療放射線技師及び臨床検査技師国家試験合格発表  
 3月22日(金) 卒業式・大学院修了式  
 3月22日(金) 助産師、保健師及び看護師各国家試験合格発表  
 3月25日(月)～31日(日) 学年末休業  
 3月29日(金) 管理栄養士国家試験合格発表



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。  
(令和2年3月24日)

- 認証評価機関  
独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
- 認証期間 7年間

## 編集後記



本号の医学部だよりをみると本格的にポストコロナ禍に入ったことを実感します。学生の海外への短期留学が再開され、オープンキャンパスに高校生が現地参加してくれています。また、夏のスポーツ大会も再開されており、優秀な成績を取めたとの話も届いています。遠隔授業は講義室での授業に戻り、いろいろな実習も正常な形になりました。キャンパスを歩くと活気が回復してきたことを実感します。

医学部学生のほとんどは卒業時に国家試験を受けることになります。本号でも見られるように、すべての試験においてその成績は非常に良好です。秋から冬になると医学部がある蔵本キャンパスの図書館は夜遅くまで勉強する学生でいっぱいです。今年も頑張ってくださいね。

(医学部広報委員会 委員長 橋本一郎)

発行 徳島大学医学部 編集 医学部広報委員会  
 広報委員 橋本一郎 (委員長)、森岡久尚、安友康二、高木康志、竹谷 豊、今井芳枝、福川美千代

本誌へのご意見・ご要望は、(総務係) E-mail: [isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp](mailto:isysoumu1k@tokushima-u.ac.jp) までお願いします。  
 なお、写真は執筆者各位の提供により掲載しています。

Tel: 088-633-9116 Fax: 088-633-9028 URL <https://www.tokushima-u.ac.jp/med/>

医学部ホームページはこちらから →

